平成２８年度　学力定着状況たしかめテストの結果を踏まえた

「１文を２文に分けて書く」指導の手引き

平成２９年２月
岡山県教育庁義務教育課

本県の児童生徒は、「文の定義を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」ことに課題が見られます。
この「指導の手引き」は、過去の調査等を踏まえて、先生方が授業で指導する際のポイントと１文を２文に分ける手順をまとめたものです。
児童生徒にこの手順を示し、反復練習の時間を設けるなど、児童生徒の「書く力」の更なる向上を目指すに当たり、有効に活用してください。

Point! １文を２文に分けるＳＴＥＰ

STEP①

設問文の主語を見つけて　　で囲む。

STEP②

文の意味を考えて、分かれるところを見つけて／（線）を引く。

（多くの場合、読点「、」のところ）

STEP③

／（線）の直前に句点を付け、／（線）の前の文を１文で正しく書き直す。

（多くの場合、読点を句点「。」に変える）

STEP④

／（線）の後の文に適切な主語を書き加える。

STEP⑤

2文をつなぐ接続詞を決める。

STEP⑥

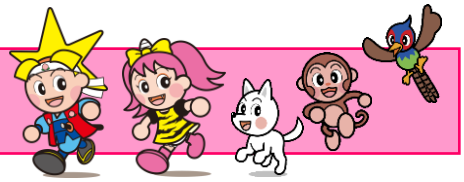
／（線）の後の文を１文で正しく書き直す。

文末の表現に留意します。
（敬体か常体か。
現在形か過去形か
能動態か受動態か　等）

学級通信等にも気を配りましょう

先生方が日頃発行している学級通信等が、児童生徒にとって本当に読みやすいものになっているかを再度見直してみませんか？
主語と述語の関係がねじれていたり、接続詞が正しく使われていなかったりすると、児童生徒にとって良くないお手本を示すことになります。
日々の小さな積みかさねこそが、児童生徒の「書く力」に直結していることを意識して、良いお手本を示すことが大切ですね。

指導の手順例



【小学校】H19　全国調査

5

次の［　　］の中の――部には、二つの内容がふくまれています。「ごん」を主語にして、**二つの文**に分けて書きましょう。

ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。

（新美南吉「ごんぎつね」による）

STEP①
主語を囲む。

STEP②
/（線）を引く。

STEP③
句点を付け、１文にする。

ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねでした。

STEP④
適切な主語を書き加える

STEP⑥
１文にする。

ごんは、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。

STEP⑤
問題によっては、接続詞を付けないこともある。

文の構成に関する指導については、文の中での語句の係り方や照応の仕方を押さえることや、いろいろな文の構成があることについて理解することが重要です。本設問で求められている能力は、①叙述内容を正しく読み取ること、②１文を２文に分けて書き換えることです。文構成を分析的に捉えたり、新たな内容を補足したりしながら、文の理解を深められるような指導が大切です。

【中学校】H２２　全国調査
H２８　たしかめ

STEP①
主語を囲む。

STEP②
/（線）を引く。

STEP③
句点を付け、
１文にする。

私たちは全国大会出場に向けて練習しています。

STEP④
適切な主語を書き加える

全国大会出場は、

STEP⑤
問題によっては、接続詞を付けないこともある。

STEP⑥
１文にする。

4

松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は、**【松本さんが書いた下書き】**です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【松本さんが書いた下書き】

今、夢中になっていること、それは部活動です。

中学校に入学して、始めて（初めて）吹奏楽部の生の演奏を聞いたとき、体中に響いてくる音の迫力に圧倒されました。そして、迷わず吹奏楽部に入部しました。その後、私の担当はフルートに決まりました。それからは、自分でも驚くほどフルートに夢中になっている（います）。先日、そばで聞いていた友達から「うまくなったね。」と言いました。そのとき、音が出るまで苦労したけれど、あきらめずに続けていてよかったと思いました。

今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。

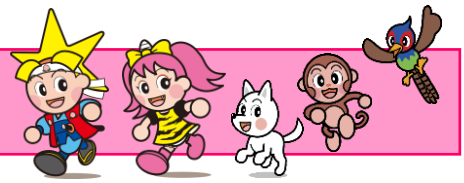
皆さんも中学校生活の中で、自分が全力で打ち込めることを探してみてください。きっと毎日が楽しく充実したものになるはずです。

二　――線部「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には二つの内容が含まれています。意味は変えずに**二つの文**に分けて書きなさい。なお、二文めには「目標です」に対応する主語を補いなさい。

【正答例】
（一文目）
私たちは全国大会出場に向けて練習しています。
（二文目）
全国大会出場は、三年生にとって最大の目標です。

傍線部の文には、２つの内容が含まれており、「目標です」に対応する主語が分かりにくくなっています。これを分かりやすい文章にするには、２文に分けるとともに、「目標です」に対応する主語を補う必要があります。
主述の関係をしっかりおさえ、述部に応じた主語を補うことが大切です。

問題例



【小学校】H２１　全国調査
H２５　全国調査

8

六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましょう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

□。だから、□

【小学校】
H２５　全国調査解説資料

【問題】

文と文のつながりを考えながら、分かりやすい文にしましょう。

先生に相談すると、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいのきれいな学校にしようと思った。

ぼくは、野球の試合で三しんをしたり、エラーをしたり、九回にサヨナラホームランを打ったりして、チームの勝利にこうけんしました。

【中学校】
新しい国語２（東京書籍）

【問題】

一文を二文に書き換えてみよう。

久々にレンタルビデオ店に出かけたら、一週間前に閉店していたのでがっかりした。

僕は、はるか遠くにあると思っていた富士山が、ビルの最上階の窓からとても大きく見えたので驚いた。

【中学校】
H２２　全国調査解説資料

【問題】

書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にしましょう。

実行委員は、合唱コンクールの審査委員を各学級２名ずつ選び、今日の放課後、音楽室で説明会を開催するので参加してください。

文の定義を理解し、構成に注意して書くためには？

伝えたい内容を相手に的確に伝えるためには、まず、主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係などに着目しながら、文の構成を整えることが重要になります。また、必要に応じて適切な接続語を使って、文と文の意味のつながりに注意することも大切です。

指導に当たっては、各学年の発達段階に応じて、次のことに留意することが必要です。

【第１・２学年】

文の定義を確実に指導し、文章を読んだり書いたりする際に、文を単位として論理的に関係付けることができるようにする必要があります。例えば、１つの段落にいくつの文が含まれているかを捉えたり、１文の中の主語や述語に印を付けたりするなどの指導を繰り返し行うことが重要です。

【第３・４学年】

修飾と被修飾の関係をはっきりさせ、文の構成について初歩的な理解ができるようにする必要があります。例えば、文の中に含まれる「だれが」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などといった観点に基づいて、文を分析的に捉える指導を行うことなどが考えられます。

【第５・６学年】

文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解できるようにする必要があります。例えば、単文・重文・複文に分けたり、性質や機能からみて、平叙文、呼びかけや疑問、応答を表す文、命令や承諾を表す文、推定や伝聞を表す文、感動や感嘆を表す文に分けたりすることなどが考えられます。

特に、重文や複文などの指導については、２つ以上の内容を必要に応じて１つの文に書き換えたり、２つ以上の内容が含まれた１文を内容ごとに複数に分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど、言語を操作する指導も大切になります。

【中学校】

文章の推敲に当たっては、表記や語句の用法を修正するだけに留まらず、主述や修飾・被修飾のなど語句同士の関係や文、段落相互の関係などについても、整合性を点検させる必要があります。修正に当たっては、単に文章を修正するだけでなく、なぜ修正するのかという理由を明確に意識させながら、自分で読み返したりペアやグループで読み合ったりする学習活動につなげることも効果的です。

参考資料

文と文をつなぐ言葉は、一般的に「接続詞」と呼ばれています。
※副詞の一部や接続助詞なども含まれています。

【接続詞の用途別の分類例】

順接・因果：前の文を原因・理由とする結果を表す。
「だから」「それで」「ゆえに」「そこで」「すると」「したがって」「よって」

逆接：前の文と対立する内容か、反対の概念を表す。
「が」「だが」「しかし」「けれど」「けれども」「だけど」「ところが」「それでも」

並列・付加：前の文と同列のことを挙げたり、付け加えたりする。
「そして」「それから」「また」「しかも」「その上」「さらに」「なお」「かつ」「および」

補足・理由説明：前の文を言い換えたり、理由を説明したりする。
「つまり」「すなわち」「なぜなら」「たとえば」「ただし」「ちなみに」「要するに」

対比・選択：前の文と比べたり、どちらかを選んだりする。
「または」「あるいは」「それとも」「そのかわり」「むしろ」「一方」「もしくは」

転換：前の文と話題を変える。
「さて」「ところで」「では」「それでは」「次に」「ときには」

文章を書くに当たっては、自分の伝えたい事柄が明確になっているかどうかについて、読み手の立場に立って確認することが大切になります。
一つの文から次の文に移るときは、その関係が順接なのか逆接なのか、あるいは付加なのか、対比なのかということを常に意識しながら文を書く習慣を身に付ける必要があります。その際、適切な接続詞を用いることができれば、論理の流れをきちんと把握した上で、分かりやすく読みやすい文章を書くことにつなげることができます。

ももっち
岡山県マスコット